

## 4 性の指導について考える

### 1 はじめに

性教育は狭い範囲に限定されたものでなく人間の生き方そのものの教育である。したがって障害児においても当然のことながら生きる上で性の問題を切り離して考えることはできない。むしろ、より以上にきめ細かく愛情をもって指導にあたっていくことが求められる。しかしながら、障害の多様性や特質という点でみた場合多くの困難をもちあわせていることも事実である。日々子どもたちとかかわりをもつなかで指導者として、大人としてどうしても伝えていきたいという思いから研究グループをつくり、3年間にわたって研究をおすすめてきた。さらに、その蓄積のうえにたって今年度も「性の指導」のグループとして発足し研究を深めることにした。

性の指導ということについてみると、これまで同様教育実践を試みることはもちろんであるが、今年度においては子どもの“気づき”ということに視点をあて取り組むことにした。性の指導の中での“気づき”とは子どもたちが生きていくうえで大切なことを感じとっていくことと受けとめている。また、新たな取り組みとしてこれまでの実践の整理をおこなうとともに教育課程に位置づけるにあたっての検討をはじめることとした。実践の整理という点では3年間の取り組みにとどまらずここ10年程前にまでさかのぼり、その中には教育実習生が所謂「保健指導」の中でおこなったものもふくめることにした。

性の指導をすすめるにあたって欠かすことのできない家庭との協力についても今年度ひき続き重視し、懇談会を開催するとともに全父母むけの懇談会報告も詳しくまとめ不参加者への配慮もおこなった。

また、これまで3年間の中で話題として出されながらも実施に移すことのできなかった施設指導員との懇談会を2回もつことができたこともあげておきたい。これは、卒業後の様子をリアルに把握することにより、いま目の前にいる子どもたちにより広い視野からかかわりをもつという点では新たな指導を考えていくにあたっての糸口が得られることになったといえる。

今年度の取り組みのあらまは以上である。それぞれの取り組みについて述べていくことにしたい。

### 2 性の指導についての内容の整理

これまでおこなってきた性の指導の内容をまとめあげたものが次のページからの表である。これは、各部ごとにおこなってきた指導を整理し配列したものであり、今後さらに検討が必要であることは言うまでもない。

全学年に共通するものとして性にかかわる被害などについては必要に応じて指導をお

こなっていることから省いてある。また、男女交際などについては文化的行事の取り組みや高等部の「芸術」の時間を通して指導をおこない、結婚についても他の教科等の指導の中でふれてきているがここでは省いてある。性の指導の中で論義のある性交、避妊等については指導がほとんどなされていないというのが率直なところである。

### 小学部での指導

題 材	指 導 内 容	授業形態	教 材 等
からだのせいけつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で顔を洗う</li> <li>○手をしっかり洗う</li> <li>○歯みがきをする</li> <li>○下着を自分でとりかえる</li> <li>○トイレのしかた</li> <li>○身のまわりの清潔</li> </ul>	学級 部全体	ファスナーつき改良ズボン
わたしたちの家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>○父母、兄弟姉妹、祖父母など</li> <li>○赤ちゃんのときがあったこと</li> <li>○家庭の中での自分</li> </ul>	学級	赤ちゃんの泣き声のテープ 写真
誕 生 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○誕生日をみんなで祝福する</li> <li>○育ってきていること</li> </ul>	部「朝の会」	ケーキの模型
男の子・女の子	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体つきや服装（パンツ）のちがい</li> <li>○排尿の仕方やトイレのちがい</li> <li>○みんななかよし</li> </ul>	学級	パンツ
大人になるって なんだろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近にいる大人のこと</li> <li>○大人の体の特徴</li> <li>○子どもと大人の体のちがい</li> <li>○大人になるまでに個人差がある</li> </ul>	学級	大人の大きさの人形 新生児人形

### 中学部での指導

題 材	指 導 内 容	授業形態	教 材 等
動物のオスとメス	<ul style="list-style-type: none"> <li>○動物にはオスとメスがある</li> <li>○人間も動物である</li> <li>○オスとメスによって子孫がつくられる</li> </ul>	グループ	図鑑
からだのことを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体の部位の正しい名前(性器も)</li> <li>○体と病気</li> <li>○病気の予防</li> </ul>	グループ	人体模型

大人になるからだ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男女の体のちがい</li> <li>○第二次性徴出現とそれにともなう変化</li> <li>○体のちがいによる相互理解</li> </ul>	学級	スライド 大人の大きさ の人形
ぼくの家族、わたしの家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の生いたち</li> <li>○家族の愛情</li> <li>○家族の中でのかけがえのない自分</li> </ul>	学級	写真
おへそのひみつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤ちゃんの育ち方</li> <li>○赤ちゃんの誕生</li> <li>○母親とのきずな</li> </ul>	グループ 学級	紙芝居 新生児人形
女の人のからだ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○女性の体のしくみ</li> <li>○月経の手当の仕方</li> <li>○マナーやエチケット</li> </ul>	女子グループ (高等部でも)	「ヤングメモリー」 (生理ノート)
トイレマナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ファスナーをあげさげして</li> <li>○トイレを汚さないようにする</li> </ul>	男子グループ (高等部でも)	大人の大きさ の人形

### 高等部での指導

題 材	指 導 内 容	授業形態	教 材 等
からだのつくりと はたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体の一部としての性器</li> <li>○生殖器のしくみ</li> <li>○性器の保護と清潔</li> </ul>	グループ	人体模型 体の構造図
男女の体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男の体と女の体のちがい</li> <li>○体と心の成長</li> </ul>	学級	大人の大きさ の人形
わたしの生いたち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生まれてから今までのこと</li> <li>○家族の人からのメッセージ</li> <li>○自分を大切にするとともに他の人も大切に</li> <li>○命の大切さ</li> </ul>	学級	写真 メッセージ
おしゃれ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○清潔な体</li> <li>○着る物の工夫</li> <li>○魅力ある男の人、女の人</li> </ul>	学級	写真 ビデオ

(安 田 茂 章)

### 3 今年度の取り組み

#### (1) 高等部男子のトイレマナー

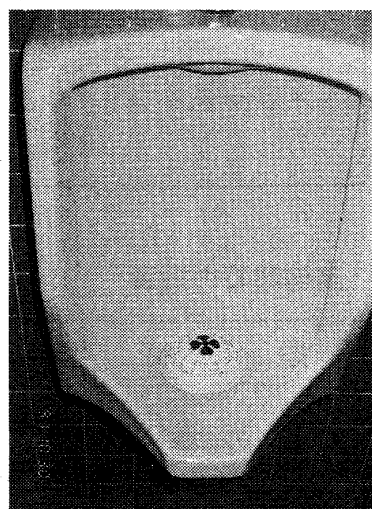
前年度はファスナーをつけたトレーニングズボンで排尿指導を行った。高等部の男子のトイレでの様子を見るとまだまだ指導の必要性を痛感するものであった。それは、小便器の下がよくぬれているので、なにくわぬ顔をして生徒の様子をうかがうと様々な問題点が観察された。小便器の前にきっちり立たないで用をたしたり、ペニスをもたなかったり、よそ見をして便器に尿が入っているのかを確かめもしなかったり、尿が最後まで出しきらないのでは？と思う程の早さでズボンの中へ入れるなどである。そこで男子だけを対象に指導することにした。

##### ① 指導の手順

ファスナーをおろす→ペニスをもつ→包皮をむいて小便する→終わったらよくふる→パンツの中へ入れる→ファスナーをしめる→手洗いをする→ハンカチでふく

##### ② 教材・教具

今年度はこの性指導のために2点用意した。1点目は新たに実物大の人形を作った。身長は150cm程度の男性で、ネクタイをして顔にはひげがあり、ズボンのファスナーからは包皮のついたペニスが出せるよう工夫したものである。2点目は、右の写真のように、男子トイレの便器に花の模様のついた芳香ボールを置いた。尿がかかると青色の花びらがピンク色に変わり、防臭効果もねらったものである。



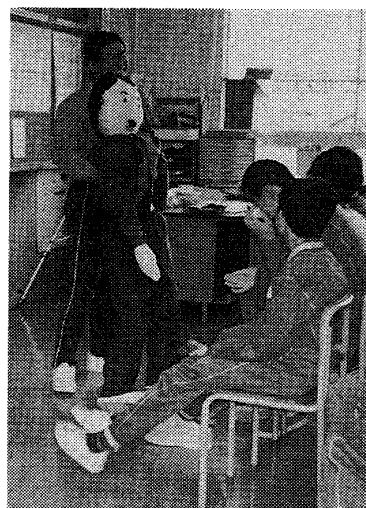
芳香剤を入れた便器

##### ③ 授業での生徒の様子

男子生徒19名を集めて「今からおしっこの仕方の勉強をはじめます」に「えーっ」と意外さとおもしろそうだなーとの思いで、好奇心に満ちた笑いを浮かべて教師を見る。「ここには女子がいないので、少し話してみたいと思います」と言うと周囲を見廻して確かめる生徒。「みんな!! おしっこが便器に入らないで横の方へシューッと飛んでいくことないかな? 実は先生も時々あるんだよ!!」とジェスチャーを加えて話すと、大きな笑いが起きる。前列の生徒が「あるある あとからお母さんに叱られた」とうなずいている。「なぜそうなるのかな?」と言いながら椅子に座らせておいた人形を立たせる。「みんなとこの人形とはどちらが背が高い?」わざわざ前へ出て来て背を較べて「僕の方が高い」と言う生徒。実物大の人形を立たせると、生徒は実によく見てくれる。指導手順にそって話す。小便をする時は、よく見てペニスの包皮をむいてすると上手に用が足

せることなど話すと「ふうーん」と納得したような声が聞こえた。これまでの単にペニスをもってするだけでは駄目なことに気づいた様子である。

次に芳香ボールのことについて生徒に聞いた。「みんな、こんなもの何処かで見たことはない？」に「知っとる——トイレにある」とたくさんの声が返ってきた。二学期から男子の小便器に取りつけたことを、皆はよく見ていた。「さて、これにお湯をかけます」立って近づいて見にくる生徒もいる。「見えんぞー」の声がとぶ。「あっ!! 色が……」生徒「色が消えた。ピンク色になった」と驚きの声があちこちから聞こえてくる。「先生、ぼくもお湯かけたいなー」の声も。「これは芳香ボールと言って、おしっこをかけると、このように青色が、ほら!! ピンク色に変わります。教室の隣の男子トイレに置いてあるので是非上手におしっこを芳香ボールにかけて下さい」といって授業を終えた。



授業のようす。

#### ④ ま と め

授業は40分間、座って実によく話を聞いてくれたと思う。それは、生徒にとって非常に身近な「排尿」を取り上げ、興味を誘う等身大の人形と色が変わる芳香ボールを使い、教師としてというよりは、一人の先輩として話しかけたことによるものと思う。生徒が人形を見て「いいな—ネクタイをしている!!」の声がこぼれた。早くお父さんのようにネクタイをしてみたいのだろう。彼等の心と体の叫びである「早く大人になりたい」の気持ちを大切にしたい。身辺自立の面では、高等部になるとできている生徒が多い。また人から裸を見られることを恥しいと思う気持ちや友達と一緒にのこををしたい、できなくても真似をして上手になりたい気持ちが育っているように思う。このような『大人になりたい気持ちや恥ずかしさ、自尊心』を大切に、その思いをばねとしたトイレマナーの指導を、今後とも日常生活の中で一人ひとりに応じて指導していきたいと考える。それは、これまでの身辺自立指導とは一味違ったものとなるだろう。

教材・教具の芳香ボールを小便器に置いたのは、放尿の時に少し意識してペニスをもって欲しいという遊び心からである。少年時代に雪道で小便した時の雪の溶け具合や色の変化を楽しんだ記憶がよみ返る。尿の的当てゲームで尿をかけた時に色が変化するおもしろさ。結果的にはペニスを手でしっかり持って上手に放尿できることをねらったものだ。この芳香ボールに興味をもちすぎて、直接手で触る小学部

の児童もいたので、その面での指導も行ってきた。また芳香ボールに放尿する角度によっては、はね返るなど問題点もある。等身大の人形では、ネクタイをつけ性毛やペニスに包皮をとりつけたことは、生徒に関心をよび性の指導を行いやすいようにした。このような工夫は性の指導に無くてはならないものであり、生徒の目を十分ひきつけてくれるものであった。(諸江 修)

## (2) 子どもたちとの生活の中で

### ① 小2組『赤ちゃんの時があったんだよ』

小2組の学級で、出産間近いY男のお母さんにも参加してもらい「生活」の時間に子どもたちといっしょに学習した。登下校の送り迎えで学校に来る母親達は子どもたちとは顔みしりである。重そうなおなかをかかえて歩いているお母さんに対して子どもたちはどのように感じているのだろうか。

絵本を読んでもらったり見るのが大好きな子どもたちと聞いていたので、絵本の中のお母さん(妊婦)を通して語りかけてみることにした。それぞれの家庭から赤ちゃんの時や小さい頃の写真を持参させた。自分の写真を早く見せて欲しくてからだを乗り出して来たりする子もいたり、友達の写真をみながら「赤ちゃん!」と写真をのぞきこみ小さい頃の写真にも関心をもって見入っている子もいた。しかし赤ちゃんの頃の写真になると本人でもわからずなじめなかった子もいた。少し成長した幼児の頃は友達にもわかってもらえたりしてうれしそうであった。

「みんな赤ちゃんの時があったんだよ。赤ちゃんはお母さんのおなかの中で少しずつ大きくなって、こんなに大きいおなかになると、おなかの赤ちゃんは、手や足を動かしてみたり、時々“えいっ”と足でけったりしてお母さんに信号を送ってくるんだよ。お母さんにはおなかの中の赤ちゃんが動いているのが分かるんだよ。大きいおなかだね」とレナート・ニルソンの写真集をめくったりして語りかけた。そして、Y男のお母さんに前に出てきてもらった。「お母さんのおなかの中で赤ちゃんが動いているのがわかるかなあ」と子どもたちといっしょに、おなかに顔をよせたのである。「触ってもいいよ」とお母さんに言ってもらえたのでみんなで大きなおなかをさわったりした。

写真や絵本を通して、またまわりの身近な人との出会いの中で自分にも赤ちゃんの時があったこと、また、だんだん大人になっていくことを感じとってほしいと思ったのである。

学習後は、こちらの思いをぶっつけたようなメッセージを家庭に送ったところ、連絡帳に意外な反響がとどけられた。夕食後のひととき、家族みんなでわが子を囲んで赤ちゃんや小さい頃のアルバムを見ながら過ごしたという。学級だよりの中でこの学習のことを知らせたこと、それをきっかけにして、親子のかかわりや生きか

た、よろこびなどが語られていくことはとてもうれしいことである。

後日、小2組の学級担任から下校時の子どもようすが伝えられた。下校の迎えにやってきたY男の母に向かって、首をかたげて「あっ、ちいちゃくなつた!」と声をかけてたH子、「そうや、赤ちゃん生まれたんや」と答えていた母、「赤ちゃん生まれたんや」とのぞきこむT男、そのそばにいたK男は「赤ちゃんが生まれたんだ」とうなずいていたという。母にだかれている赤ちゃんをのぞきこむように「あゆみちゃん」と呼びかけていたH子の笑顔がほのぼのとしていてうれしかったという。学級担任も「赤ちゃんね」と言葉をそえながら、H子の赤ちゃんへの声かけの中に、『やっと会えたね、あゆみちゃん』といった感動がめばえていたのではなかったろうかという、学級担任からの報告であった。

あのH子やK男等は2か月後に赤ちゃんを抱いたお母さんとの出会いを通して、おなかの大きかったお母さんとの学習に繋がったのではないだろうか。「あっ、赤ちゃんだ」といった歓声が聞こえてくるようである。このような小さな感動を見逃さずに伝え合うことを大切にしていきたい。

赤ちゃん誕生やその出会いを通して『いのち』を語っていきたいなどと考えているが、それだけではなく、子どもたちとの触れ合いを通してコミュニケーションを高め、子どもたちと生活をしながら私たちは子どもの心の動きを感覚的にとらえていきたいものである。

## ② 小3組『修学旅行の一コマ』

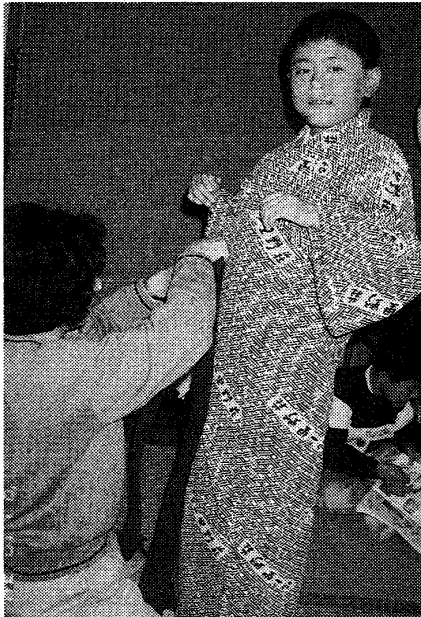
秋に行われた修学旅行の宿泊先のことである。夕食後のひとときそれぞれの部屋でくつろいでいた時にK子は部屋に置いてある浴衣が、気になってしかたがないようであった。学級担任や私に「着物を着る」「着物を着るの」と何度も何度も尋ねてきた。「着ないよ」と答えながらも、着物にこだわっている彼女の気持ちは着てほしいのか、自分が着たいのかなどと思っていたところ、着物を広げだして同室の級友Y子に袖を通しだし、掛け合わせを反対にして着せかけだしたのである。とてもY子の浴衣姿が似合っているのに大声を出して喜んでしまったのである。少し着付けをととのえて「かわいい、似合うね」なんて喜ばせる学級担任である。K子も着たいというのにまかせて、きちんと



着付け、帯を結びなおすと2人の表情はとてもよいのである。これはみんなに披露しなければとうれしくなって、「〇〇先生に見せておいで」と、指導者自身の気持

ちが高ぶったのであった。歩き方まで装って、向かいの男子の部屋に。ここでも大変な喜びで、評価された2人は大満足であった。

部屋の隅の鏡に写してみている。この女子のはしゃぎに感化されたY男は自分にも着せてほしいといってくる。そのY男の着物姿にK男も着たいと言ってきた。気持ちが高ぶっていた私たちは、男子にも着物を着せてその姿に感激していたのである。カメラを向けてポーズをとらせていると子どもたちもよくのっていたのが印象的であった。



表現会で衣装をつける機会がある。いつもと違う装いをして鏡に写し、いつもと違う自分に気付いている。舞台上に立ち緊張をしながらも喝采をあげ、装うこと、着物を着るよろこびを感じている。このT子は低学年の時、高等部生徒の表現会の着物姿をみて「高等部になったら着物を着る」と言っていたのである。着物に対してあこがれを抱いていたのであろう。この着る喜び、装うことを通して生活を高めていくことも性の指導のなかに考えたいものである。このような子どもの思いや気づきを日常生活のなかで育てるような性の指導でありたい。

### (3) 施設指導員との懇談から

これまで課題に残されていた施設指導員との懇談として、入所施設を2か所訪問したのである。性の懇談というほどにきちんと共通の話題にしぼって話しあったのでも、深く追求したりしたものでもなく、どちらかという卒業生の予後指導といった訪問的な雰囲気がつよかった。

施設には私たちの卒業生も多く世話になっているので性のつまづきがないだろうか、四六時中の生活の中で手をこまねていることがないだろうか、学校はどのようなことに気をつけて性の指導を位置づけていくのがよいかなどたずねてみたが、特にとりたてて問題視することもなく明るく過ごしているということであった。

所生の性表情や行動を大人として当たり前を受け止めていることがなによりの安心であり、ほっとしたのである。特別に性の指導の時間を取っていないということであったが、性をタブー視しているのではなく生活の中でマナーも含めて育てているといったようすがうかがえた。

ここで話題にあがったことをあげてみると、



- ・グループホームに出ている所生の中には日曜日は自由であり成人映画も見ているように見てきた映画を恥ずかしそうに話してくることもある。
- ・結婚したいという気持ちも出してきたり、好きな人がいると言ったりしているが、実際に行動するという事はない。
- ・ズボンの中へ手を入れたり臭いをかいたりしている所生があり、いんきんたむしであったことがあるので不潔にならないように性器の洗い方を指導したり、援助しているが結果的には挑発していないだろうかという心配がある。
- ・自慰行為を自分の部屋でしているがその処理が不十分な所生もいる。
- ・腹ばいになってホールでさわっている所生もあり、テレビを見ながらからだをゆすって満足している場合もある。
- ・学生ボランティアの参加もあるので「人前で脱ぐのはよくない」などTPOをおさええている。
- ・ある女子では、生理ショーツを当てないので指導員が時間をみて、援助しているケース指導もある。
- ・入所の施設であるが、親も安定するように家庭との連絡を大切にしているが帰省した家庭から「大人になりました、パンツがよごれました（夢精のこと）」と連絡があり母親の喜びが伝えられる。

などといった内容で、所生たちのプライバシーゆえに語り合えない部分もあり、施設での生活そのものが性の指導の場であることを実感した。

また、施設間の交流として性の分科会もあり意見交換の場があるということであった。話題はまとまらないがそれぞれの施設で対応し、性のことでいつでも土壌づくりはもっていききたいという心強い決意も聞けたのである。

「彼らとの生活が安定していること、それは休火山である。死火山ではないのである」という言葉がとても印象に残っている。

私たちは家庭との学習会にとどまらず、施設指導員との交流を持ったことは大きな収穫であった。学校生活より卒業後の方がずっと長い生活である。それぞれの施設で所生たちは共同生活の場でパブリックなこと、プライベートなことを大切にしながら大人へのステップを踏んでいるのである。このことを通して私たちは学校生活の中で子どもたちとどうかかわっていくか見つめていきたい。また、今回の入所施設の訪問ではおおらかに明るい雰囲気の中かで、卒業生たちが生活していたのであるが、通所の作業所などでは恋愛感情や、男女交際をつまづきなどがみられるのであろうか。これからも施設や作業所等の指導員との交流を計画していきたいと考えている。

(花 本 ヨシエ)

#### 4 ま と め

3年間の取り組みを経て新たな出発となった今年度は、各研究グループでの話し合いを小、中、高各部での研究へと広げることが大切になることになった。性指導が教師みんなのものとなり、誰もが教え、育てていくものとなるためにも当然のことといえる。実際の所、子どもたち一人ひとりの行動、表情を、あるいはこれまでの指導そのものを性指導の視点から見つめ直すことができるようになるという広まりが見えてきている。

性の指導は大きく分けて、授業の中で教えていくものと日常生活の中で教え育てていくものの2面があり、それが互いに補い合いながら進められるものといえる。今年度の取り組みの「高等部男子のトイレマナー」は前者の指導であるが、排尿が十分でない生徒への個別的対応などは、日常生活の中でも指導されている。この排尿指導などはプライベートなものだけに、等身大の人形を使うなど教材にも工夫しきちんと教えていくことが大切であり、同時にパブリックなマナーも意識して指導してきた。この指導が高等部でも継続されるのは、小、中の延長としてだけではなく、卒業後の社会の中で生きていく姿も考えてのことである。性を正しくとらえ、子どもの思いを大切にし、生活を豊かにするために、どんな生活体験をさせればよいか、どんな教材が準備できるかなどは、共に生活する教師や親の課題でもあろう。小学部の「子どもたちとの生活の中で」は、日常生活の中で、子どもの様子、気持ちをとらえ育てていく面を示したものといえる。豊かな性が語れるように、生活や学習の中での教師の気づきもみのがせない所である。こうした眼で性の指導も考えたいものである。

今回、これまでの性にかかわる学習実践について、どんな内容をどんな授業形態で指導してきたかを学部別に整理した。これはどんな指導が必要であるかを濃淡の差はあれ示すものといえることができ、カリキュラム作りの第一歩として意味あるものとする。しかし、まだまだこれで十分とはいえず、性交や避妊の指導はどうするのかということも含めて今後の課題として受け止めている。またこの内容整理は、誰もが性指導をすすめていくための資料となる側面も併せもっているといえる。ところでこれまでの指導から、どちらかというとなりの知的な学習が苦手な子どもたち、あるいは学習に集中できない、意が伝わらない子どもたちのことがよく話題となった。1つの受け止め方として、日常生活の中で、感性、感覚に訴えた、行動、マナーの指導を考えていくことが大切であり、効果的ではないかといったことが話し合われた。

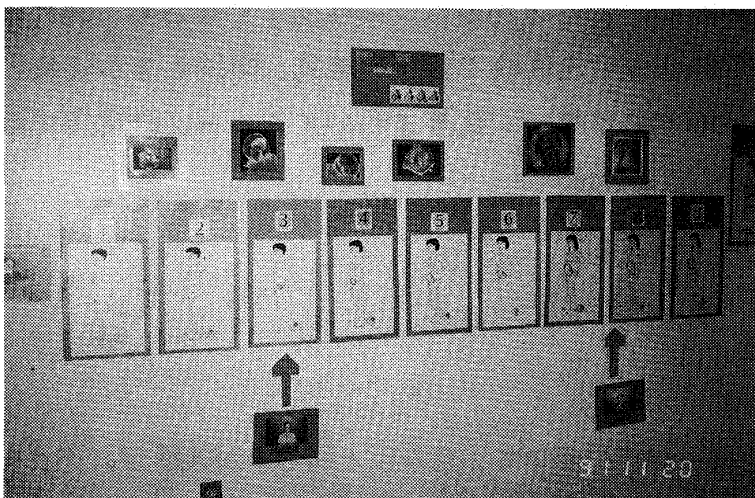
卒業後の子どもたちの姿を見ることは、学校での指導を考える上での手がかりを与えてくれるものだと考えてきた。その意味で施設職員との懇談はグループができた時からの課題として残っていた。今回2つの入所施設を訪問したが、いずれも入所生の思いを大切にし、彼らの性を問題視することなく、あたり前のこととして受け止める姿勢が見られ、共通の認識の上での話し合いができた。彼らの性行動は、自慰など個人にとどま

るものが多く、恋愛感情、男女交際など他者と関わるものが少なかったのは比較的障害が重い人が多かったせいかと思われた。また施設の勤務体制を知るにつけ、学校という手厚い指導が可能な時期にできるだけのことをして送りだしたいものだった。

なお、家庭との連絡、提携はさまざまな面で必要なことはいうまでもないが、とりわけ性指導の分野では欠かすことのできないものといえる。これらが欠けると効果をあげるところか時には不信を招きかねないのである。そのためグループができて以来、この事を大事にして毎年何らかの働きかけをしてきている。この紀要ではふれなかったが、今年度も親との学習会を持ちその内容を報告している。親の気持ちや子どもの家庭でのようすを知ることができ、また我々教師が学ぶべき点もあり、どちらにとっても有意義なものになっている。

最後に性の指導を効果的にすすめるにあたって欠かすことのできない教材、教具のことについて若干ふれておきたい。これまでも教材、教具を重視し工夫をこらしてきたが指導の場面に限定されていたきらいがある。今後はさらに教育環境ということも含めて考えていくことも必要かと思われる。昨年11月海外研修の機会を得てカナダの精神薄弱養護学校を見学したおり、廊下の掲示物に、妊娠月数におうじた妊婦のおなかと胎児の様子を図示したものがあり、実際の写真も加えて掲示してあった。そしてこの学校に勤務する現在妊娠中の教師がいまどの時期にあたるかをその顔写真をはって示してあった。教師が意図して製作し、廊下に掲示したものである。日本であれば教室や保健室あたりでは見ることもできるこうしたものが、精神薄弱養護学校の廊下の掲示物としてあったのはとても新鮮で印象に残ったものである。1つの参考として考えてみたい。

(浦田東作)



廊下の掲示物 (カナダ・精神薄弱養護学校)